

令和7年5月1日

令和7年度 八峰白神ジオパーク推進協議会総会
議 事 録

- 1 開催場所 八峰町役場 大会議室
- 2 期日 令和7年5月1日(水) 13:30～15:30
- 3 出席者
会長 堀内 満也
副会長 鈴木 洋一(八峰町教育委員会 教育長)
副会長 鈴木 和人(八峰白神ジオパークガイドの会 会長)
副会長 山内 章(八峰町観光協会 ※太田治彦の代理)
監事 斉藤 誠悦(八峰町白神ガイドの会)
団体会員 桜庭 武(秋田やまもと農業協同組合八峰支店 支店長)
山内 賢也(八峰町校長会 会長)
高辻 洋暁(秋田銀行八森支店 支店長)
佐々木正憲(八峰町文化財保護協会 会長)
小沢 悟(八峰町芸術文化協会 会長)
須藤 徳雄(岩館第2自治会 会長)
個人会員 奈良 聡子、鈴木 悟
事務局 鈴木美由紀、木藤 誠
- 4 案件
 - 1) 報告第1号 令和6年度事業報告
 - 2) 議案第1号 令和6年度収支決算報告
会計監査報告
 - 3) 議案第2号 令和7年度事業計画(案)
 - 4) 議案第3号 令和7年度収支予算(案)
 - 5) 議案第4号 役員改選
 - 6) その他

【堀内会長あいさつ】

皆さん改めましてお疲れさまです。

まず、本日大変お忙しい中、そしてまた連休の真ん中という暦どおりの人、そうじゃない人もお休みのところ来ていただいた方に感謝を申し上げます。

皆さんご承知のとおりでございますけども、このジオパーク、昨年度からですね、今まで観光系のところの部署でありましたけれども、昨年からは教育部局に移して、事業を進めて

まいりました。

これまで、子どもたち、町の小・中学生だけでなく、去年はですね、生涯学習という立場におきまして事業を展開してきたところでございます。また昨年のJGNの全国大会、下北でありましたけども、その際にはですね、地元の子どもたちが行ってポスターセッション、そしてまた発表とやっていただきまして、非常に成果は上がってるんじゃないかなというふうに思っているところでございます。

今年度も引き続きこうした体制で進めていきたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日でございますけども、今年度の事業計画等を説明することとしております。

皆様からは忌憚のないご意見を賜りますようよろしくお願いを申し上げまして、私からのあいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【1）議案第1号 令和6年度事業報告】

【2）議案第2号 令和6年度収支決算報告】

1) 1. 運営

2. 保全・研究

3. 教育・防災

4. ツーリズム

5. ネットワーク活動

6. その他

2) 1. 令和6年度収支決算

会計監査報告 監事より報告

(斉藤誠悦監事から監査報告書読み上げ)

令和6年度八峰白神ジオパーク推進協議会会計収支決算書に関する一切について、令和7年4月22日に監査し、適正と認める。

《質疑応答》

会 員～決算に、アドバイザーの委託費というのは、24年度予算で林先生が1回1万円だけという支出で、これはこの後の予算にも関わることなんですが、アドバイザーをここに3人委託してるんですね。蒔田先生、田口先生、林先生。この3人の先生方に委託して、部会のときとかに呼べるっていうことでやってたんですけど、結果的に部会もほとんど開けなかったんですね。他の部会にも入ったので、いろいろ要請があったんですが、実際、今回、(事務局)さんが1人だけっていう担当になって、ジオパークの仕事だけしてるだけでなく、生涯学習とかの担当もされていて、本当にお忙しくてですね、こっちからも、こういうことでやったりだとかといったときに対応できてなかったんです。部会を開けず。実際今回は見た通りですね、運営委員会、結果的に、この前1回開いて運営委員会の中で要望したんですが、事務局が1人っていう体制はですね、なかなか活動を活発にしていくには、あまりにも

(事務局)さんが忙しすぎて、対応できない状態なのでしょう。さっき言ったアドバイザーだけではないんですけども、例えばアドバイザーに関して言えば、実際、今回、新しいジオパークガイドに安井さんっていう人が能代から入ったんですが、彼は今、うちのジオパークガイドの中では、もう専門員的な立場で活動できる専門家なんですけども、彼の知り合いがいっぱいいいて、山形大学だとか、北海道大学だとかそういう専門の先生たちともすごいお付き合いのある人で、そういう人たちにですね、今後いろいろな意味で相談をかけたり、実際こっちまで来て八峰のジオパークを調べたりしてくれてるし、生徒には卒論を八峰町の泊の海岸をやってくれるとかっていうふうな情報も入ってきてるんです。そういう意味で、アドバイザーをですね、この3人に絞っちゃってると、そういう人たちを呼ぶときに使えない。その辺を何て言うんだろう。もう少しいろんな活動をしたいというふうに対応できるような、(事務局)さん1人で大変だということだけではなくですね、こういう決め方もですね、ここでこうやって絞って、他の先生には協力してくださいと言っても対応できないわけですから、そういうところの柔軟性みたいなことをちょっと考えてやっていけたらいいんじゃないかな、というふうな気もしていますので、一応発言しておきます。

会 長～他に何かありますでしょうか？(「いいですか」の声あり)はいどうぞ。

会 員～前年度、全国大会に参加されたようですが、小学校のポスターセッションっていうのが多分6ページの資料3だと思うんですが、このページでもうちょっとだけ詳しく内容教えて欲しいのと、同時に、さっき(事務局)さんから説明された、販売された認定商品がどういうものなのか、何を何個くらいな持っていったのかを教えていただきたいと思います。

会 長～事務局どうぞ。

事務局～今日の総会資料の6ページ目の方に写真の方をつけさせていただいております。一番上の2つが八森小学校のポスター発表なんですけれども、八森小学校さんの方で毎年ジオパークを学校の中で活用していただいて、6年以上実施していただいております。6年生の3人がそれぞれ、自分の目線で6年間自分たちが学習して、学んできたことをポスターという形でまとめていただきました。これは会場の方に、写真にもありますけども、ポスターから付属の写真、それから俳句を作られたものをラミネート加工して張り出しています。左側の写真の方に、現地で、むつ市の小学生がいっぱい来ていたと思うんですけども、こちらの方にはポスターの前にズラリと並んで集まっていたいて、その前で、八森小学校で6年間こういう自分たちの学びをしてきました、という取り組みを発表していただいております。こういった形で、地元(むつ市)の小学生がズラリと並んでいただいておりますけども、それ以外にも、全国からの参加者が個別に小学生の方に直接、「これはどういうことなのでしょうか」というようなご質問をして、それに八森小学校さんが自分の言葉で答えていただいております。

それから、認定商品の方ですけれども、10種類各10個ずつ持って行きまして、例えば、白神カフェの梨のジャム、そういったものをこちらの方で認定商品として扱ってるもの、それからぶなっコランドで販売しているブナをモチーフにしたタオルとか、そういったものも持って行って販売しています、そういったものを10種類くらい持っていきまして、2日間販売をしまして、先ほどご報告させていただいたように売って好評を得ました、ということでございます。残念ながら、お酒類は販売許可の関係でできなかったんですけれども、そういったものが販売できればもう少し種類を増やせたんですが、まず、最大限やれることをこちらの方でやらせていただきました。

会 員～ガラス製品とかでもいいんだ。

事務局～あれは今、個数がないです。昔作ったやつがあったんですけど、あれも観光協会に若干残っているだけという話を聞いてますので販売できませんでした。

会 長～この収入はどこに出てくるんですか。

事務局～収入は、(商品を)協議会の方で買い上げ等していませんので、集まった金額をそれぞれ提供していただいた事業者の方にそのままお渡ししています。ですので、ハタハタ館から仕入れたものとか、しらかみカフェから仕入れた物等がありますので、集まったものをこちらで計算して全部、当該事業者に直接お渡ししています。

会 長～商品をその店から持ってって預かって、お金だけを持ってくるというやり方をしてるんですね。

会 員～手数料とか無いんですね。

事務局～大体こういうイベントだと、会場費が必ず取られるんですけど、今回はそういったことをまず無料でやる。スペース提供します。ということで手数料の設定はしませんでした。(会長から「なるほど」とあり)こちらの趣旨として、認定商品がこのくらいあります、ということ、県外の方に知っていただくということをまず主眼に置きましたので、手数料等は考えませんでした。

会 長～仮に余ればまたそのまま商品は返すってということですか。

事務局～そういうお話をして、それでも大丈夫なものを出していただきました。

会 長～その他ありませんか。

会 員～よろしいですか。私もこの小学校の発表に少し同行させていただいたんですが、小学校の発表の中で、八峰白神ジオパークというふうな紹介をさせていただいたんですが、どこにそこがあるのか。これは周りの子どもたちとか、あるいは大人の人たちがよく知らなかった。ただ白神山地の麓にある、そういうふうな説明で、初めて、白神山地の下なんだっていう、やっぱりネームバリューの白神山地がやっぱり大きな価値があるんだなっていうことをつくづく感じた次第です。これは補足でございます。

会 長～ありがとうございます。他にありますか。(挙手)どうぞ。

会 員～ランチョンマットの活用なんですけれども、各事業者に配布した他、何か活用方法

が決まったでしょうか。

事務局～協議会としては、主は事業所の方に配布させていただいてます。それから昨年、獨協大学からガイドで申し込みがあり、そういった団体さんに直接ガイドを通じて配布させていただいてるとか、一部、ガイドの方でも活用はさせていただいております。

会 員～（会員）さんのイラストですよね、確か。よくできてるなと思うんですけど、あれを八峰白神ジオパーク推進協議会として、商品化するとかそういう意見ってというのは出てないでしょうかね。

事務局～協議会として販売事業者になるというのは、いろんなハードルがあるのと思うのでそこまでは踏み込んでいません。

会 員～商品を販売するというのは難しいんですか。

事務局～消費税の事業者申告等、いろんなものが出てくると思いますので、そういった、踏まなきゃいけない手続きとかいろいろ出てくるんじゃないかなと思ってます。

会 員～推進協議会として売るのは難しいということですね。わかりました。

会 長～権利自体は（会員）さん？

会 員～（自身に権利）無いです。

会 長～協議会にあるということですね。そうすれば、それを使いたいっていう人もいれば、その事業者にデータをお渡しして商品化するのは OK っていうことですか。他にありますか。

会 員～予算の中にも何か関わってくるので、ちょっと確認しておきたいんですけども、去年、活性化事業ということで、推進協議会から 50 万円いただいて、実際、無料ガイドみたいな形で森林科学館、ぶなっこランドです。月に 2 回ぐらい、無料ガイドみたいな形でやって、そのときに、お客さんに 1 人 100 円以上カンパして欲しいっていうことをお願いして、カンパしてもらったんですね。7、8 千円ぐらいお金をいただいたんですが、そのカンパしていただいたお金は、僕たちの意識としてはガイドが一生懸命ガイドして、カンパをいただいたので、ガイドの会で使えるんだなと思ってたら、最終的にはですね、活性化事業でやってる事業なので、それで出たお金は推進協議会に返してほしいということで、そのお金は推進協議会に返したような形なんですね。何となく私たちにすれば、1 人で 1,000 円以上 3,000 円とかくれた人もいて、すごい喜んで、こんなに喜んでくれたなということで、すごく盛り上がったんですけども、そうやって一生懸命頑張ってやっても、活性化事業でやってると、全部そういうお金がまた推進協議会に返さなきゃいけないんだっていう、何かルールらしいんですけども、そういうなかなか納得できないような、役場の中にはいっぱいあるらしくて。その辺をですね、もう少し、一生懸命頑張ったものがガイドの会に戻ってくるようにできないものかな、と。この活性化事業というのはすごく縛りがあって、自由にいろいろやりたいんだけどそれは活性化事業じゃないから出せないと。いつもやろうとすると、結局事務局と僕との間で、

会との間で、いつもそれでもめてですね、いつもイライラしてる感じなんです、役場のルールだからっていうふうな形で言われちゃうということ、役場のことはよくわからないんですけども、やっぱり活性化事業というお金がですね、もう少し本当にガイドの会が一生懸命いろんなことやって、プラスになるような使い方ができるようにですね、ルールを改正できるのであれば（改正）してほしいなというふうな気がします。最初の発言もそうだったんですけども、事務局が現在1人なものですから、いろんなことを相談しに行ってもいなかったり、時間がなかったり、それでこっちの方で何か決めようと思っても、勝手に決めちゃいけないっていうことになると、本当に活動が思うようにいってないのが現状なのでその辺のことを、推進協議会の中で揉んでもらえればありがたいなと思います。以上です。

会 長～その収入というのは、ガイドの会の収入になっているんですか。

会 員～収入はガイドの会の収入にしたいなという思いはあったんですが、今おっしゃったようなことで返金させてもらってます。

会 長～どこに見えてきますか。

事務局～推進協議会の方からは、あくまで補助金で出すっていう話しかないので、そちらの経理はガイドの会の収支で見っていきます。

会 長～そう。だから、ガイドの会が全部分かってるということ。

事務局～今の話からいくと、推進協議会からガイドの会への補助金という形で出してます。補助金の考え方、あるいは補助金のルールというのがありますので、そちらに従って執行していただいているということで、説明をずっとこの間させていただきました。なので活性化業務をやっていただいている補助金なので、活性化に要した費用の方にまずは充てていただいて、残りの部分を推進協議会からの補助金で支出をしていただくというのが正当のやり方ではないですか、というお話をさせていただいて、執行していただいているということです。

会 長～要は、この決算書の中に見えてこないんですけども、活性化の予算が23万9,280円。これを事業をやる上で、ガイドの会はこれを使ったと。多分この内訳が、支出も収入も両方入ってるってことですか。ガイドの会の中で。だから、推進協議会、こっちの会議はわからないんですよ。私もガイドの会の決算を見てなきゃわからないんですけど、それはどうなんですかね。

会 員～ガイドの会の今の数千円の部分、これは返金というふうに、決算はしたわけです。

事務局～今、返金というお話がありましたけど、ガイドの会の方で活性化業務という形で無料ガイドをやっていただきました。例を出すと、（事業に）1万円かかりました。そのうち協力金で1,000円入りました、となると、残り9,000円の部分を補助金で出します、という形で。ただ、補助金は元々2万円支出していて、そのため返金していただいたという形をご理解していただければと思います。（会長から「なるほど」という声あり）なので、先ほどちょっとご発言いただいた、協力金を町に返しているということでは無いということです。

会 長～ジオパークガイドの会での活性化、補助金を使わずに自分らで事業展開するんであれば、それは収入になりますよっていうことですね。

会 員～活性化事業、PR 活動ですね。それに見合った実入りは無かったっていうところで、それは判断が十分心浸透してなかった。その辺がちょっといろいろトラブルがあったと思いますが、この後も、まず今事務局からあったような、そういう捉え方でするのであれば、何かでちょっとしたお金が入ったとしても、あくまでも PR 事業の経費として使わせていただく、そういう解釈かと。

会 長～ちょっと非常に見えづらいんですけども、町から推進協議会に補助金を出して、そこからまた外部の会への補助金というのがすごい見えづらいと思います。

会 員～ちょっといいですか。今年活性化事業でやった役員会でも提案したのが、鳥海山・飛島ジオパークで昨年やったやつなんですけども、教育旅行支援という形でガイド料 50%安くしますよ、っていうキャンペーンだったんですね。だから飛島の中の学校は関係なく、それ以外のところから鳥海山・飛島にジオパークを教育的な形で来ると、ガイド料を半分にしてあげますよっていうやつがあったのでこれを見て、来年うちの方もこういうのをやろうよって話をしたんですよ。だけど、活性化事業でもしそれをやると、半分、要するにお客さんからもらって、収入は全部またそれを返さなきゃいけないっていう形になっちゃうんで、それこそ一生懸命活動しても結局意味ないよねっていう感じになってこれをまずもうちょっとコースを考え直そうっていうことにはなったんですけども、ルールがなかなかわからない。一般の人にすれば。役場の人たちはそういうことに関してはわかりやすいかもしれないけれども、我々一般人から見ると、何でカンパしたカネ返さなきゃいけないんだよみたいなのが、みんなにジワジワってあって、わけわかんないけどそういうことだったらしょうがないねみたいな感じになってるんですよ。そうするとやっぱり意識があまり高まらないっていうか、一生懸命頑張っても、なんだろうみたいな部分もあるんで、その辺の使いやすさを考えた補助金にしてもらえればありがたいなっていうことですね。

会 長～ガイドの会のことなのでよくわからないけど、会費を会員から取ってそれで何か事業展開する分には全然いいと思うんですけども、それで自分らの収入にしているという。数字はとってると思うけど、やっぱり補助金使って事業やって、となるとやっぱり返すっていうこともあるのかな、と。税金ですからね。税金使って事業やって収入が自分らなのかっていうと、なかなか町民には説明できないかなという感じはしますけど。そのあたりはもう少しガイドの会でもいろいろと話し合ってくればなと思いますけど。

会 員～一応総会の方では、今の補助金の使い方については、もちろん私も行政もちょっと顔出していたので理解はさせていただいてるんですけども、ちょっと別の面で工夫した展開をする必要があるかなと思っております。今、(会員)さんがおっしゃったように今の提案というのは取り下げるということです。

会 長～その他ありますでしょうか。

会 員～すいません。会長の方からこのジオパークは、観光的な領地から教育的なものに変わったというのは認識してるわけですけども、実際問題、やってきて、外部の会議、ガイドの内容とか、ガイドに対する思いとか、そういうものの変化って具体的に何かあったのでしょうか？簡単でいいのでわかったら教えて欲しいと思います。

会 員～21名のガイドの方がいらっしゃいます。それぞれいろんな年齢によっても違うんですけども、ほとんどの方が仕事を持っております。従って平日に関わる活動ができるということはほんのわずかです。その中で展開する上では、なかなかガイド依頼に対して、いろんなガイドの人全員が関われるわけでもなく、空いてる人しかいない。特定の方々に集中していると、そういうあたりで、今、問題かなと思っております。思いの方はこの前の研鑽会を通したんですが、ガイドするための思いが強いですけれども、そのためのいろいろなテクニックとか、お客様とのやり取り、ここにまだ十分自信を持ってやりきれていない方も大勢いるっていうのは、私も感じております。そのあたりでどう展開していくか。今年度事業としては、まず初任の方でもうまくガイドできるようなテクニックとか度胸をつける、そういうふうなリハーサルを深めていきたいなと思います。

会 長～よろしいですか。

会 員～例えばですけども、観光面で考えると、例えばリピーターを増やそうとか、そういう考えも出てくると思うんですけども、教育的なものになると、1回やれば学習だからっていう、リピーターまで考えてないみたいなそういうことも起こりうるのでしょうか。教育っていうカチツとした堅いイメージになっていくのかなという。そういうことはないですか。

会 員～ちょっといいですか。さっき町長さんの挨拶のときにお話したように、教育委員会にジオパークの場所が行ったっていうことなんですが、外部の方としては、教育面だけでなくやっぱり、当然、観光だとか町の人たちの利益とか、そういうふうなものに繋がるっていうのは最大の目標で活動しています。だから、その辺はちょっとジオパークの会長さんとはちょっとずれがある感じはします。今回、漁師さんといろいろジオを回ったりして、今年度の予定として、漁師さんと一緒にワークショップとかを計画してるんですけども、それに関して、去年回った際にですね、漁協にお願いして、海図っていうか、海の中の状況がわかる地図がないかって聞いたら、漁場図っていう、要するに岩礁の地図なんです。八峰町に岩礁というのは、ちょうど隆起している鹿の浦から北側の方にだけあって、沖合に南の方の中浜地区くらい、旧八森町、昔の八森村の範囲ぐらいいは沖合にだいたい300mくらい岩礁があって、岩館の方、小入川から漁港の方に行くと、800mから1kmくらいあるんですよ。その岩礁な漁場なんです。岩場に海藻が入ってくるんで、その海藻に貝とか魚が集まってくる。それを、環白神のイベントで、小林水産の小林ユウダイさんがギバサの資源回復ってことで、潜水の免許を取って、船越ソウタくんとユウダイさ

んと2人で貝を作って、何年か県の水産の方の協力も得ながら、海底の岩場、岩礁を掃除して、泥を避けて、そこにアカモクをものすごく資源回復させたっていう研究発表みたいなのがあったんです。要するに人の手で岩礁をちょっと変えるだけで、ものすごく資源が回復したっていうことがあって、そういう意味で今までジオパークっていうのは陸地の方だけ見てたんだけど、海の中の岩礁もジオパークの範囲に入れて、漁師さんたちと一緒に八峰町の岩礁を資源回復して行って、いつかハタハタが帰ってくるぞ、みたいなことをテーマとして活動していきたいというふうに考えています。だから、そういうふうなことは一つの例ですけども、そうやっていくと漁師さんもジオパークがあることで、八峰町の海の幸が美味しいんだっていうことになってくるし、お互い、ウィンの関係になってくるんですよ。だから教育面だけじゃなくて当然そういう民間の方のいろんな協力も得ながら八森の資源とか、お客様のためのいろんな活動に繋げていくことがやっぱりジオパークっていうのはできるんで、今度は農業にも繋がる。梨とか。いろいろ繋がっていくと思うので、そういうふうなことでやろう、ということ考えてます。当然再認定の時にはジオパークってのは両方やってないと再認定、教育面だけってのは不合格になっちゃうんで、両方やってるっていうことでアピールしていかないと、当然再認定にもならないと、一応そういう気持ちでは動いているということです。

会 長～ごめんなさい。とりあえず事業報告と収支決算報告の中での質問にしてもらっていいですかね。その他でまた聞きますので。その他報告1号と議案1号に関連して何かご意見ありますでしょうか？（「ありません」の声あり）ありがとうございます。それでは報告第1号、議案第1号は原案の通り承認ということでよろしいでしょうか？（「はい」の声あり）ありがとうございます。報告第1号そしてまた議案第1号につきましては、原案通り承認されました。続きまして議案第2号、議案第3号の説明をそれぞれ事務局よりお願いいたします。

【3）議案第2号 令和7年度事業計画（案）】

【4）議案第3号 令和7年度収支予算（案）】

事務局より総会資料を基に説明を行う。

《質疑応答》

会 長～ありがとうございます。ただいま説明がありました令和7年度事業計画案、そしてまた令和7年度収支予算案につきまして、何かご意見ご質問等ありますでしょうか。

会 員～やっぱりアドバイザーのところですけども、3人の方に専門家に委嘱してあるわけですね。ここを、できればその都度必要な専門家に委嘱できるっていうふうな形に変えればですね、予算をうまく回していけるようになるんじゃないかと思うんで、そこを一つ提案したいと思います。それと、ジオパークの全国大会に小・中学生のポスター発表を消してありますけども、去年下北でですね、八森小学校のポス

ターにものすごく人が集まって、話題を集めるくらいの、我々も「なんでこんなに人が来たんだ」と思うくらい集めての内容だったし、何回もやって疲れて大変そうな状態だったんですが、町長が教育方面に力を入れるってことになれば、やっぱりこういう全国大会ですね、ポスター発表だけでなく口頭発表というのも、ステージでイベントがあるんですね。だからぜひですね、全国大会、小学生の発表を。盛り込んでいただきたいなというのがあります。以上です。

会 員～全国大会ってどこなんですか。

会 員～今度は十勝ですね。北海道です。

会 長～専門家の配置に対して、その人を委嘱してはどうかというふうにしていく。それについて何かありますか。

事務局～こちらの方ですけれども、令和4年度の再認定審査が終わった後、ずっとこの形でやらせていただいております。そういった人（会員提案の方）の、どういう方かというのをこちらで存じ上げてないっていうのもあるんですけれども、そういった方をお願いして果たして学術的な裏付けが大丈夫かどうかっていうのは、こちらの方でちょっと考えさせていただければと思います。八峰白神ジオパークでも課題についての有益な話が聞けるといえるのであれば、会長と相談させていただいての判断ということでいかがかなと思います。

会 長～（会員）さんそれでよろしいですか。

会 員～そこが自由に選べるようになるのであれば、ぜひお願いしたい。

会 長～この人がた以外にもやっぱり・・・。

会 員～はっきり言って、この人たちに来ていただいて、一応、例えば我々が頼みっていう先生が林先生以外の先生は今のところよくわからないので頼みようがない。例えば、今回北海道大学の相沢先生（「北海道教育大学」という発言あり）。その後山形の方にもいるんです。あと秋田大学にもですね、この前お会いした人で、八峰町のマンチャナイトをものすごく研究してる人がいて、そういう先生がいるのに、だったら呼びたいと思ってもその先生は委嘱できないってことであればもったいないので、そういう方をその都度、そういう専門家の方に委嘱できるってことになれば、いろんなその活動に繋がっていくんじゃないかと思うんです。

会 長～私の考えからすると、秋田県内にこれだけ専門家の方がいるのであれば、（会員）さんはよくわからないって言うんですけど、もしかすると、しっかりとした・・・。

会 員～この先生たちはこの先生たちで部会の顧問なんです。

事務局～蒔田先生は生態学ということで、どちらかというと講座の方中心で、白神山地の研究をされている方っていうふうに聞いています。それと、田口先生は教育学ということで、うちの学習指導要領に基づいたものをまとめるときにアドバイザーとして来ていただいたという経緯がありますので、そういった学習面での活用の仕方等をゆざわジオパークで実践されてこられてる方ですのでそういう意味で有益な意見をいただけるものというふうに考えてます。あと、これは事務局としてになる

んですけども、やはり県外の先生になると交通費用等いろんなものが掛かってくるのでそういったものを度外視してやるとはいかないな、というのが正直あります。

会 長～そうですね。

事務局～できれば県内の方を優先させていただければという。

会 員～何人までというルールがあるんですか。

事務局～規約等で何人までという定めはないです。

会 員～そういう意味では利用できれば一番いいのでは。例えば、去年の専門研究で採用された相沢先生。北海道なんですけども、研究されてるんですよ。そうすると研究成果が出て、それを例えば、あの先生呼んでこっちの方で勉強会とか発表会あるみたいなことを企画したときに、委嘱できれば、勉強会とか、あとは旅費とかもある程度助成してもらって、ぱっと来てもらいやすいと思うので、そういうふうな形で活用できれば一番いいのかなと。実際この町に興味を持ってすごい研究してくれようとしている先生たちもいっぱいいるのに、そうじゃないさっきの先生たちは別に八森じゃなくていいわけで、そういう意味では今までにない人の繋がりができてきてるので、それも全部安井くんがジオパークガイドになって、彼の繋がりととか、前の西出会長の繋がりとかで橋本さんとかいろいろいるんですよ。そうやってジオガイドの人たちとも交流して、一緒にやってる人たちを呼べないっていうのは問題なような気がします。

会 員～（会員）さんのおっしゃるのはよくわかるんだけど、実際のところ、私も含めて、ガイドは楽しくやりたいんですよ。あまり何か別の面で嫌な思いをしたくない、そういう思いもあるんです。そうしたときに、今おっしゃったこと、すごくわかります。ただ、安井さんっていう方を通していろいろ情報は提供していただけてるんですよ。ですからその情報をもとにして、こちらの大学の先生も何か研究費、研究科学、文科省からの金を使ってきてるようですので、それらを活用していただければ、それにありがたいことはないと思うんで、そうしながら、まずやることはまず先決じゃないかなと。確かにお金をね、やってきてもらうのはいいんだけど、私ちょっとその辺で（会員）さんには申し訳ないけども、私個人としてはちょっとまた違う観点から、ガイドのみんなが楽しくガイドしたいという思いで関わっていききたいというふうに思います。

会 長～ありがとうございます。そこあたりをご理解いただければなというところでございます。それともう一つ出ました全国大会への子どもたちの派遣、先ほども言いましたが、北海道の次は。

事務局～九州ブロックです。今時点で事務局の考えは、近県開催の時にやればいいのかと思ってます。引率もそうですが、平日に子どもを休ませるっていうこと自体がいいかどうか、学校現場と話し合ってから決めなきゃいけないことだと思ってます。そういう話を事前にしておりませんでしたので、今年度はすいませんが見送りと

させていただきたいと思います。

会 長～その他ありませんか。

会 員～ジオの皆さんには本当に学校としてお世話になっております。子どもたちの方にも地域に貢献する子どもたち、3校で何とかできないかなということで、統合もだいぶ具体的な話も出てきてるところなんですけど、今年度初めて小小、同じ修学旅行で行くことになりました。何を言いたいかというと、その際に今年度英会話のソフトも入りましたので、英語版のジオのカードを作ろうかな、と。ガイドブックを作るか、パンフレット作ろうかなと。それを行き先の函館で配りたいというふうなことなんですけど、八峰ジオのパンフもちろんあるんですけども、子どもたちの手書きのかわいいパンフレットを、町内であれば、ハタハタ館とかおらほの館とかそういうところに置くのと同時に、函館なんかの外国人の方々を相手にしたものを作ろうかなと思ってます。そういうふうなことに對して、専門的な立場からアドバイスをいただければいいなと思うところと、子どもたちが作るってことは絶対的に情報量が少ないんです。ウェルカム八峰白神ジオパンフでも、写真を2、3枚半々っていうくらいのところなんですけども、今考えているのはQRコードを貼り付けたらどうかなと思ってるんです。QRコードを貼り付けて、例えばアクセスの仕方だとか、宿泊先だとか、お土産だとか、そういった具体的なちょっと生々しいところに関しては、そのQRコードから具体的なものを見ていけるような形にしたなら、産学協同でもないんですけども、インバウンドの人がそのQRコードをスマホでかざしたらこういうふうなアクセスの仕方があるんだとか、宿泊先としてはこういうところがあるんだなという形でやれば、学校としてもジオの方にお手伝いできるかなというふうなことなので、そういったことも事業の中にもし可能であれば入れ込んでいただければありがたいなと思っています。以上です。

事務局～可能な範囲でいろいろ相談させていただきながら進めていければと思います。よろしくをお願いします。

会 員～ただ、問題点として、ホームページがあるのかなっていうところがあって、ジオに関するそういうインターネットを介していろいろなことに触れるようなことができるような、そういうところにポンと飛べれば、子どもたちの少ない情報量はあくまでも入口として、こんなところがありますよっていうところで、詳しいところはそっちで詳しくはウェブでっていう感じにできればいいかなと思っています。

事務局～またいろいろ相談をさせてください。

会 長～ガイドの会と連携とかもしながら、子どもたちに提供してくれると思います。その他ありますでしょうか？

会 員～特別に難しく話をしてたいわけではなくて、良くしていきたいくて頑張っていますのでよろしく。運営委員会のときに部会の活動って、今年度やらないっていうふうに説明してきたんですけど、部会はまた続けていくっていう形ですか。

事務局～必要に応じて開催を考えますので、一応経費の方だけは盛らせていただきました。

こちらでやれる範囲でやらさせていただきますが、先ほど言いましたように必要に応じて、ということで、裏付けがないと何もできないという話にもなりますので、そういうご理解をしていただければと思います。

会 員～ここは今までやった部会がなくなって、これから何か必要な部会ができたときに部会を作るということで解釈していいですか。

事務局～そう受け止めていただいていいかと思います。この後、総会が終わってから運営委員会もまた新たに設置しますので、運営委員会である程度議論していければ。

会 長～その他ありますでしょうか。それでは議案第2号および、また議案第3号については原案通り承認ということではよろしいでしょうか。（「はい」の声あり）ありがとうございます。議案第2号また議案第3号については原案通り承認されました。次に議案第4号役員改正でございます。規約なんですが、役員は会員からの互選になってるんですか。

事務局～そうですね。互選、その取り決めは特別ないんですけども総会の場で互選という形で構いません。

会 長～これにつきまして何か皆様からご意見ありますでしょうか。

会 員～事務局に案がございましたら、それを発表していただいて、お願いします。

事務局～はい。それではよろしいですか。

【5）議案第4号 役員改選】

事務局より、現体制をそのまま留任という案を説明。

《質疑応答》

会 長～ありがとうございます。ただいま事務局から案が出ましたけれどもこれにご異議ございませんか。（「はい」の声あり）ありがとうございます。それでは事務局案の通り、3番の副会長、西出さんのところを鈴木会長に代えて他は一緒というところでいきたいと思います。よろしく願いいたします。次第では閉会となりますけれども、その他で皆さんいろいろと思いますので、お聞きしたいと思いますけど。

会 員～八峰白神ジオパークが立ち上げの頃、私、産業振興課長やってまして、事務局長やったというのはあるんですけども、あのときは全国の団体、ジオパークの団体の方から産業振興の活性化にすごく役立つところだ、というお話があって、まず、だったら、八峰町もやってみたいなという熱があったんですね。ところが当時の会長さんとかが、我々のバス乗ったら、後ろの方で専門家の人が、あれ（ジオパーク）ってやっぱり教育的なあれなんだよな、まだ産業とか観光メインにしようという団体、あれっておかしいよねっていうのが聞こえてきて、そのときにあれ？これはやっぱり教育委員会が持つべきじゃないかなって、当時は産業振興部門とそれから教育部門半々ぐらいがちよっと作業が多いぐらいの全国の事務局だったんですよ。どんどんどん今この形に、より、移ってきてるんですね。ただ、さっき（会員）さんが、ジオパークはやっぱり教育面もあるし防災面もあるし、観光面というか、

あるとそれでツーリズムの部分もあるとなってるんですね。このままでいくと、事務局がもう、ね、生涯学習課なもんだから、やっぱり教育面がずっと強くなっていて、ツーリズムというのは予算もなくなっていく可能性があるんで、できれば、商工観光課なのか産業振興課なのかわかんないけど職員 1 人ぐらいここにいてもらうか、いなくてもいいので、後でそっち部門等に情報を提供するなりしながら、少しでもツーリズムというか、そっちの方も役立てていかないと、あの学者の方々の予言が当たりそうな気がして、そこはちょっとお願いしたいな、と。

会 長～これ実は去年から先ほど挨拶でもいいましたがけれども、教育委員会に所管を移しました。私何でこれをしたかっていうと、なかなかね、このジオパークと観光というところ、いろんな全国の首長さんたちと私、意見交換しましたが、非常に繋げるのは難しいと相当言ってます。どこの首長さんも言ってます。観光イコールジオパークっていうのはなかなか難しいぞと。私この地元に戻ってきてね、いろんなお父さんお母さんと話しました。未だに、ジオパークってなんだって、いう人がたくさんいます。はっきり言って。そのぐらいの地元でジオパークっていうことがまだまだ認知されていない。となれば、まずは子どもたち、そしてまた生涯学習という面で大人たちにもですね、ジオパークっていうことをしっかりと勉強してもらって認識してもらおうというのが、スタートだと思ってます。ジオパーク認定されてから何年も経ってますけども、まだまだこの地元にはまだ根付ききってないのかなっていう思いがあってですね、実は教育委員会、本当に今回ポイントだということでございます。いずれも（会員）さんの言うようにですね、教育一辺倒ではちょっとなかなかっていうところも十分認識しておりますけれども、決して私、ジオパークを批判してるわけじゃなくて、やはり、教育にも重きを置きながら、地元の認知度っていうか、そういったところをちょっと高めていきたいなという思いがまずはあるんで、ある程度それが高まってきた状況で、その次の段階にシフトしていけばいいかなというふうに思ってます。確かに、最初、観光の方がやはり動きが多かったと思います。実際に旧産業の方にありましたので、やはりそれがメインだと思うんですけども、やっぱりもう少し、繰り返しになりますけれども、地元へ根付いてから、いろいろ展開していきたいなというふうな思いがありますので、そういったところをちょっとご理解いただければと思います。また事務局が 1 人で大変だという意見も先ほど（会員）さんからもありました。いずれかなり（事務局）も頑張ってるやっておりますけども、そういったところ業務量等ですね、しっかりと私も把握しておりますんで、ご意見はしっかりと受け止めたいというふうに思っています。よろしいでしょうか。（「はい」の声あり）

会 員～今町長さんが言ったようなことをですね、うちのガイドの会にもぜひ直接一度機会を見て、お話しいただければ。というのは、昨年あたりからものすごくみんな不安になってて、うちの町はもうジオパークやめるつもりなんじゃないの。養成講座で勉強させて失礼だよみたいなお話になってるんですよ。やっぱり町長がこの町

のジオパークと世界遺産はやっぱり宝物で、これをもとにしてやっぱりまちおこししていくんだ、っていうことを表明していただくと、みんなもやる気が出てくるんですがすごくみんな不安、クエスチョンマークになってます。そういうところをちょっとこれからぜひ協力いただきたいと思いますし、あと、ものすごく良いニュースもありまして、去年の3月からですね、全国のガイドに対する基準が見直されて、今まではお客さんをガイドの車に乗せてガイドすることは、あと送り迎えだとか、そういうふうなことは白タク行為だから駄目っていうことでやってたんですが、去年3月からかなり大幅に見直して、それをタクシー行為としての料金さえもらわなければ、ガイドが自分の車に乗せて送り迎えしたり車に乗せながらのガイドも必要だと見なされないっていう。ものすごくものすごくいい条件が出たんですね。それでよく考えてみると、駅までですね、今まではお客さんは自分のレンタカー借りてこないと見れなかったところが、駅まで来て、ガイドが迎えに行き、また時間までに送り返せるわけですから、頼みやすくなったんですよ。逆に言うと、町内のおじいさんおばあさんたちも3人くらい集まって、申し込んでもらえれば、家まで迎えに行き見たいところを見て、また家まで送り返すことができるんですよ。そういう意味ではガイドがものすごく利用されやすくなったんです。ただ、さっき（会員）さんが言ったように、私が言ったように、今ガイドですね、平日仕事してて、土日しか動けないって人がほとんどなものですから、やっぱりその年金族の私たち年寄りのガイドはですね、そういう意味ではもっと増やして、そして平日でも日曜日でもいつでも一年中いつでもいけるよっていうことで、どんどん売り込んでいきたいと思ってます。そういう意味では大チャンスじゃないかなと思ってます。観光に結びつかないっていうことではなく、ひょっとすると私去年、屋久島に行って、屋久島のガイドは年間に1,000万円以上稼ぐガイドがいっぱいいるっていうふうに聞いて、もう度肝ぬいたんですが、そこまでいなくても、ガイドでもちゃんと稼げるということであれば、町民がアルバイト代わりにですね、ガイドをやろうっていう気持ちにもなるので、そういう意味で盛り上げ方次第では、これから光が当たったなと思いますので、皆さんもぜひ協力していただければありがたいと思います。以上です。

会 員～また別の観点からですが、今町長さんの思いもすごくわかりました。まず町民の方々にジオに対する認識を高める、そのためのちょっと仕掛けを自分なりにも考えております。八峰町に地域の名前の由来、必ず地質とジオの地形と密接に関わってます。その辺りを自分自身が調査しながら、それを町民の皆さんにいきわたらせて、この地域の土台、どうやってこの地名ができたか、その辺を調べながら、認識を深め、そしてジオに理解してもらえるように、少し反映できておりますので、よろしく（会長から「ぜひよろしくお願いします」の声あり）わかりました。

会 長～その他ありますでしょうか。

会 員～ジオパークの事務局を教育委員会の方に所管替えした町長の会長の意図は理解し

ました。ただやっぱり、ジオパークは一般の町民から、あんまり学術的になりすぎると、遠い存在になってしまうんですよ。議会もそうなんですよ。議員の関心も低いんですね。ジオパークに。去年か一昨年だったか、岩崎の方までガイドツアーの企画してくださって、その時確か議員で参加したのは私だけだったかもしれない。そういう関心が薄くて、これやっぱり私達の責任でもあるんですよ。皆さん一生懸命頑張ってらっしゃると思うんですけども。年1回の総会にだけ参加しても実際のところ、ガイドの会もガイドの会でまた別に会合もやってらっしゃるでしょうし、その辺の詳しい中身がわからないんですよ。だからせめてその教育的な側面だけではなくて、ジオスポットっていうのは観光スポットでもあるわけだから、観光等は関係あるわけですよ。せめて総会だけでも商工観光課長なり、他の観光に関係ある人にオブザーバー参加みたいにして出ていただいて、情報共有して、緩やかに連携していった方がいいと思うんですね。完璧にもう教育だけに閉じない、緩やかに連携続けていって、で、何年かしたらまたもうちょっと観光面でも頑張っていきましょうっていうそういう空気を今から作っていかないと、どんどんどんどん遠い存在になっていってしまう気がします。

会 長～貴重なご意見ありがとうございます。いずれ、私も行政の縦割りというの大嫌いですので、壁を取り除く意味でですね、次回からはオブザーバーで観光部局の担当者も入れる形にしたいと思います。まずは総会からそういった形にしたいと思います。ありがとうございます。

事務局～事務局が1点報告がありまして、今年に入ってから話ですけども、全日空の機内誌で「翼の王国」というのがあるんですけども、あれの特集を8月号あたりでやるらしく、秋田の県北を特集するんです。その中で、三種町観光協会の方から連絡があったんですけども、八峰白神ジオパークを取材したいということで、機内誌の編集担当の方が今月こちらに来て、取材をさせていただきたいということでお話がありましたので、いずれ紹介していただけるみたいです。その点も報告させていただきます。

会 長～その話は別の方からも聞きました。山本酒造店にも行くようなお話してました。

事務局～水の関わり方でジオパークに連絡がきたということです。以上です。

会 員～私、勉強不足であれなんですけども、ジオポイントの中に鹿の浦からちょっと見える「魚岩」っていうのもあったんですけど、あれって崩れたり変わったりしているかわかりませんか。（「そのままです」の声あり）そのままですか。何かあそこから見るとちょっと形が違ってくるように見えるかもしれませんが気のせいですか。

会 員～多少かけてるかもしれませんが、一応、変わらないです。（ガイドの会）総会の後の研鑽会でも、ガイドの会でみんな一緒に見ましたので大丈夫です。潮吹きはまだ健在です。

会 長～他に。よろしいですかね。ありがとうございます。それでは最後、進行事務局にお返しします。

事務局～堀内会長、会議進行ありがとうございました。これをもちまして、令和7年度八峰
白神ジオパーク推進協議会総会を終了します。皆様お疲れさまでした。